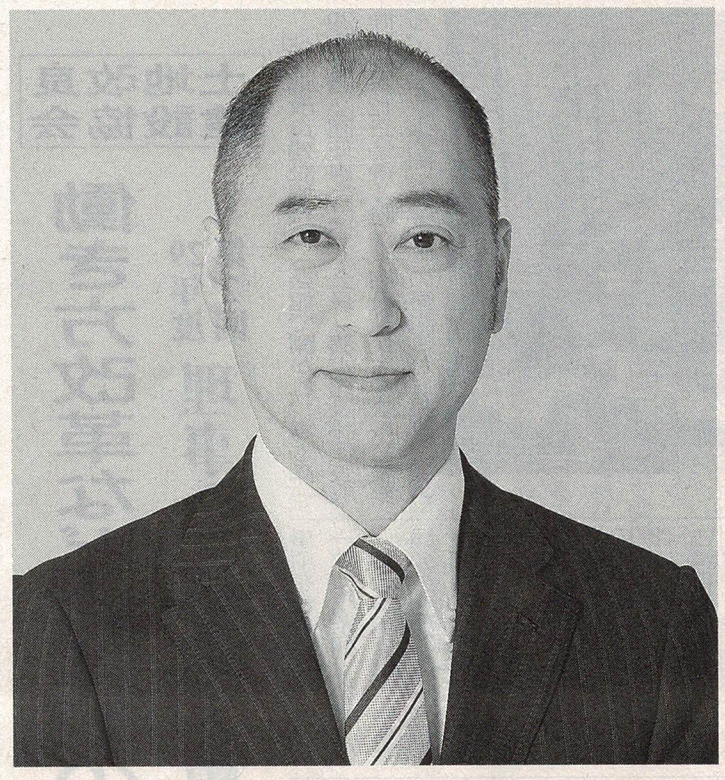
宮崎雅夫氏

国政を志す理由・抱負を語る



土政連の総会で、お話をさせていただく機会をいただきまして、誠にありがとうございます。また、昨年末に農林水産省を退職いたしました。入省以来、皆様方には大変お世話になりました。この場をお借りして、御礼を申し上げたいと思います。

会長からご紹介をいただきましたが、私の方からも自己紹介を含め、現在の〝思い〟についてお話をさせていただきます。

私は、昭和38年12月3日、兵庫県神戸市北区山田町に生まれ、現在54歳です。実家は農家で祖父母も一緒に暮らしていました。大学卒業までは基本的に神戸の実家で育ちまして、小学校の2年間は茨城県の水戸で暮らした経験もあります。私は神戸生まれ、神戸育ちですが、神戸とお聞きになり港町神戸、都会といったイメージをお持ちになる方が多いと思います。私は山田町というところに生まれ、ここは六甲山の北側にある農村でありまして、名前の通り山と田んぼに囲まれたところです。

地元で通いました中学校の校区の中には、国営の東播用水事業で造りました呑吐ダムがあり、中学の時に、農林省の土地改良という事業により大きなダムができるのだという話を聞いた覚えがあります。

実家では主に米を作り、田植えは集落のみんなに手伝ってもらったり、おふくろが手伝いに行ったりしていましたし、稲刈りは私も子供の頃から鎌を持って手伝っていました。母の実家も同じ神戸ですが農家で、米以外に乳牛を30頭ぐらい飼っていまして、夏休みには私一人だけ残り、朝早くから起きて牛にエサをやったり乳搾りを手伝ったりした、楽しい思い出もあります。子供の頃から農業の手伝いをしたことが、私の今の仕事と言いますか、私自身の基礎になっているような気がしています。中学、高校、大学と地元の神戸の学校に通いました。高校時代は、少し勉強はおろそかになりましたが、硬式テニスをやっておりテニス部のキャプテンを務めていました。

昭和62年3月に神戸大学農学部農業工学科を卒業し、同年4月に農林水産省に入省しまして、いろいろな職場で働かせていただきました。昭和63年4月、最初の現場である新潟県の三条市にある北陸農政局下田開拓建設事業所に赴任し、農地開発と区画整備を担当しました。その後、本省の係長を経験し、ベトナムの日本大使館に3年勤務いたしました。農業だけではなく、経済協力の関係などの仕事もさせていただきました。海外とはその後も縁がありまして、東北農政局最上川下流農業水利事業所（山形県庄内町）で工事課長を経験した後、今度はカンボジアでJICAの専門家として3年間過ごしました。本省の3ポストの班長を務めた後、進藤先生の後任として熊本県庁に3年間お世話になりました。その間、平成22年度NN予算が大幅削減になったこともありました。それから、団体関係で集落排水を担当した後、本省に戻りまして、設計課海外土地改良技術室長、そして昨年7月に地域整備課長を務めさせていただきました。

これが、一応の私の自己紹介であります。

次に、政治の道を目指そうとしましたきっかけについてお話ししたいと思います。

先ほども申し上げましたが、熊本県庁の在任中、平成22年度農業農村整備関係予算が大幅削減になりまして、県営事業の新規着工を凍結せざるを得なかった状況になりました。新規着工までの地元関係の皆様の気持ちを考えると、これが政治なのか、と非常に悔しい思いをした記憶があります。一方で、予算が減った分県としても何とかしなければならないと、県費を活用し県の単独事業をある程度の規模で創ったりしましたが、それを応援していただいたのは県内の政治であったわけです。その時に、改めて、いや初めてといった方がいいかもしれませんが、政治の力を認識いたしました。また、本省の室長・課長の時には、皆様から政策提案なり土地改良に対する思いをお聞きし、農水省の職員としてできるだけそれに応えていかねばならない、そのような気持ちを持っていました。

昨年、この件でお声掛けをいただき、正直に申し上げまして非常に悩みました。自問自答を繰り返しました。

入省以来、皆様方に育てていただいたというふうに思っています。恩返しをしなくては、今がその時期なのだとも思いましたし、進藤先生が地元の声を国政の場にしっかり届けておられますが、もう一人いればそれらの声をもっと届けることができるのではないか、そして、予算についても今後さらに安定的に増加させていくことができるのではないか、そのような思いがありまして、「私でよければ」という話になりました。

土地改良は現場が第一、現場主義だと思っていますので、全国を廻らさせていただき、お話を伺うことがまず一番だと肝に銘じております。あえて申し上げるとすれば、1つ目には、農業農村整備関係の予算の確保は非常に重要な課題だと思います。〝闘う土地改良〟の旗印の下、土地改良関係者の皆様の気持ちのこもった活動の成果として、来年度の予算案は今年の補正を含め5800億円という立派な数字となりました。計画的に事業を進めていくには当初予算が必要で、当初予算も300億円を超えて非常に大きな伸びでしたが、まだまだここがゴールではないと思っています。皆様と一緒に闘っていきたい、と強く思っています。

2つ目は、農地、農業用水について、今だけではなくそれを未来に繋いでいく必要があるのではないか、また、それぞれ地域々々によって歴史があります。皆様で守ってきたものや今つくっているものをしっかりした形で未来に繋げていくことが、我々の責務ではないかと思っています。

3つ目は、我々のまさしく中心であります土地改良区の強化といいますか、更なる発展が大事だと思っています。海外の土地改良関係者が日本に多く来られ、我々は現場を案内したり説明する機会が多々ありましたが、海外の方々は、日本の近代的なハードの素晴らしさはもちろん、それ以上に、土地改良区は素晴らしいと称賛しています。受益農家が組織して維持管理や水配分をしっかりやっている、それも自分たちが賦課金を集めてやっていることに驚いています。私も、土地改良区は日本が誇る組織であると説明しています。現在、農業情勢が変化する中で、土地改良区の在り方も曲がり角に差し掛かりつつあるのではないかと感じています。土地改良区の強化は今後の大きな課題だと思っています。

これから全国を廻らさせていただき、いろいろと伺った話を実行していきたいということで、昨年末に農水省を退職しました。至らぬところが多い身ですが、土地改良、日本の農業、農村の発展のために、進藤先生と車の両輪という役割を是非担わせていただけないか、と考えています。是非とも、私、宮崎雅夫に、全国土政連から次期参議院選挙の候補者として推薦をいただきたい。よろしくお願い申し上げます。

【プロフィール】

宮崎雅夫（みやざき・まさお）

昭和38年12月3日生（54歳）。兵庫県神戸市北区出身。同57年兵庫県立兵庫高等学校卒。同62年神戸大学農学部農業工学科卒。同年農林水産省入省。同63年北陸農政局下田開拓建設事業所工事第一課（新潟県三条市）。平成2年北陸農政局計画部事業計画課。同3年構造改善局計画部事業計画課資源第二係長。同6年在ベトナム日本国大使館二等書記官。同9年東北農政局最上川下流農業水利事業所工事第一課長（山形県庄内町）。同11年カンボジア王国水資源気象省派遣（JICA専門家）。同14年国際協力銀行開発セクター部参事役。同16年農村振興局農村政策課農村整備総合調整室課長補佐（農村整備計画班）。同17年農村振興局計画部事業計画課事業総合調整室課長補佐（水利防災班）。同18年農村振興局整備部設計課海外土地改良技術室課長補佐（海外企画班）。同21年熊本県農林水産部農村計画・技術管理課長。同24年㈳地域環境資源センター集落排水部長。同25年農村振興局整備部設計課海外土地改良技術室長。同29年農村振興局整備部地域整備課長。同年12月農林水産省退職。